

合同会社テングビール



事業者概要

群馬県前橋市を拠点とするクラフトビールの製造・販売を行うブルワリー。2023年に醸造を開始し、「自由な発想」と「地域密着型」のクラフトビール文化を発信。インターナショナル・ビアカップ2024では銀賞・銅賞を受賞し、品質でも高評価を得ている。クラフトビールを通じた新たなライフスタイルや地域活性化を目指す。

プロジェクト参加背景

クラフトビール文化の定着と市場課題への挑戦

クラフトビール市場の成長可能性に着目しながらも、「価格の高さ」や「大手ビールとの差別化の曖昧さ」など、業界が抱える根本的課題に直面していた。

ビール文化そのものを変えるべく、消費者との新たな関わり方や体験の提供が必要と考え、本プロジェクトに参加。自由な発想と地域資源を活かした持続可能なビジネスモデルの確立を目指した。

本プロジェクトで取り組んだこと

クラフトビールを軸にした体験型ビジネスの構築

デザイン経営を通して、自社らしさを探究した。テングビールのクラフトビールの魅力を広めるため、「だれでもブルワーアプリ」や新入社員研修プログラム「円陣」の開発など、飲むだけでなく“つくる・使う・遊ぶ”体験の企画案を検討した。

さらに、群馬県をクラフトビールの聖地とする「BEERVANA計画」を打ち出し、イベントやツーリズムとの連動も視野に入れた。クラフトビールを地域文化として根付かせる5ヵ年計画を立案し、多角的な事業展開を準備した。



成果・手応え

アワード受賞とクラフトビールへの共感の広がり

デザイン経営の導入により、テングビールとしての自社らしさを明確化し、それを基盤とした文化醸成の取り組みとして企業向けブルワリー体験やBEERVANA計画など具体的な施策を立案。

将来像として、クラフトビールを通じた新たなカルチャーの創出や地域との連携による観光・教育分野への展開など、中長期的なビジョンが具体化したことで、単なる製造販売にとどまらない持続可能なビジネスモデルの実現に向けた手応えを得た。

今後の展望

群馬発・日本初のクラフトビールカルチャー創出

今後は「誰でもつくれる・誰でも楽しめる」クラフトビール文化の定着に注力し、2030年には全国・世界への発信拠点となることを目指す。群馬県でのオクトーバーフェス開催、特区申請、ブルワリーの移住優遇制度などを推進し、観光・研修・教育・農業など他分野との連携を強化。クラフトビールを単なる飲料からカルチャーへと昇華させる持続可能なモデルを確立していく。

